

CD

## 音楽のキューピッド！ セシル・ウーセの ピアノニズム

演奏学科鍵盤楽器専修 ピアノ 4年

正村恵

今思えば甚だ恥ずかしいことではありますが、作曲家ラヴェルを知ったのは、フランス音楽に疎かった高校1年の頃でした。とあるオムニバスCDから流れてきた《水の戯れ》を偶然耳にし、その煌びやかさ、それまで聴いたことのない和音の響きにすっかり虜になってしまったのを、今でも覚えています。この時ピアノを弾いていたのが、女流ピアニスト、セシル・ウーセでした。

何より、彼女の弾き方に好感を抱いていました。一音一音に輝きがあり、品があり、フランスらしい淡い響きや音色も一層感じられると思うのです。

このCDは、ラヴェルの2つのピアノ協奏曲と《クーブランの墓》が収録されたものです。ト長調協奏曲は、ティボーデ(仏)やミケランジェリ(伊)の演奏もお勧めですが、ウーセは、女性的でありながら内面から湧く力強さをも兼ね備えているように思います。左手のためのピアノ協奏曲でも、洗練されたテク

ニックで力強さや勇ましさが表現されているようでした。もちろん、サイモン・ラトル率いるオーケストラとの兼ね合いも絶妙で、聴いているこちらとしても興奮しますし、彼らの作り出す世界にどンドン引き込まれてしまいます！

ある時は柔和で繊細な響き、またある時はリズムカル且つ軽快な音楽：《クーブランの墓》でも、そんな彼女の演奏に心奪われることと思います。特にフォルラーヌやリゴードン、トッカータは必聴ですよ！

ウーセは、ラヴェルの他のピアノ作品も多数録音しています。このCDにはありませんが、《鏡》《高貴にして感傷的なワルツ》もお

BOOK

## 恋する全ての オンナたちへ

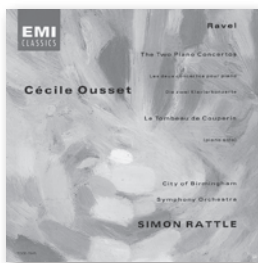
音楽文化デザイン学科音楽療法専修  
平成22年度卒業

木元佐代子

そのアナタ。そう、紛れもなくアナタ、よ。アナタ。今、一人のロックスターとの恋愛を夢見ているでしょう？

勧めです。興味のある方は是非聴いてみてください。興味のある方は是非聴いてみてください。

さて、筆置きに：私もこのCDを改めて聴くこととします。ラヴェルと私を結びつけてくれた音楽のキューピッドに、Merci!と感謝を込めて。



請求記号●XD28145  
ピアノ協奏曲；クーブランの墓；  
左手のためのピアノ協奏曲/  
ラヴェル TOCE-7845  
EMI ミュージック・ジャパン  
＊現在は廃盤

：やはり、そうでしょうね。私の目に狂いはなかったようだわ。そんなあなたにおすすめの一冊がこちらなの。

これはね、かの有名なロックスターのオンナについて書かれた一冊。よくあるただのゴシップ本ではなく、紛れもなく実際のオンナ達のインタビューによって構成されているから、彼女たちの経験そのものと、オンナとしての信念、そしてオトコへの強い愛が書かれているわ。そしてそこから見えるオトコの現実も。ちなみに訳者である吉田真弓女士は、かの有名なピーター・バラカン氏の奥方のよ。

●しょうむら めぐみ 春生まれということもあってか、四季の中でも春が好きです♪学部最後の年、満開の桜を眺めつつ、気持ちを新たに頑張りたいですね！

私?ああ、申し遅れたわね。私はそのオンナ達に憧れた、ただのオンナってところかしら。私の思い出話を少し聞いてくださる?

…ありがとう。

私のロックスターへの憧れは中学一年生に始まるの。そう、エリック・クラプトンを御存知かしら。私の彼への情熱は英語の勉強量に比例したわ。彼と愛の言葉を紡ぐためには彼の話す英語が必要なのよ。だけれど『コカイン』というタイトルの音楽を創造する彼との恋愛は両親に反対されてしまったのよ。

この本を読めば、ご両親に反対される前にロックスターとの恋愛は、ここでは言い表せないくらい、とてもデンジャラスなものだと気づかせてくれるわ。お二人の愛はそのデンジャラスな何かに打ち勝つことができるかしら?

…そのデンジャラスとは何か聞きたいって?それは読んでからのお楽しみよ。そのためにも国立音大の図書館へ足を運んで頂戴。図書館で私とも、また会えるかもしれないわね。それではごきげんよう。あなたの愛が実ることを祈っているわ。



請求記号 ● J65-585  
ヴィクトリア・バルフォア著  
吉田真弓訳『ロックスターの女たち』音楽之友社

●きもと さよこ 4年間、司書の方々と、「オンナのおしゃべり」も来館の楽しみでした。

CD

## 絶えず「識る」 「じつに感謝を」

演奏学科鍵盤楽器専修(ピアノ) 3年 佐藤香織

理屈は必要ない、体がそんなふう感じてしまう瞬間をもたらすモーツァルトの音楽。とにかく、聴いていて快い。だけど影があり、どこことなくとても寂しい。こんなにも明るくて楽しい旋律から孤独を感じさせる彼のマジックに私は幼い頃からメロメロなのである。モーツァルトが好きで好きでたまらない。大学に入学して更に彼について深く知るきっかけになったのが『フリーメイソン』の存在だ。前から名前は知っていたが、図書館で本を借り、そのページをめくるごとに興味が増していった。

フリーメイソンとは、18世紀イギリスの啓蒙主義精神から生まれ、「自由、平等、友愛」をスローガンとし、神を拝むわけではなく、光や太陽を崇拜した。団体側はフリーメイソンは宗教ではないとし、会員となるためには成年男子であること、信仰の対象をもっていることが絶対条件であり、そこには常に音楽があったという。なにより秘密主義である事と、反カトリックの要素があったため政府の

転覆を狙った団体と睨まれていたようだ。当時イタリアやウィーンの宮廷の権力体制から突き放されたモーツァルトに救いの手を差し伸べたのもフリーメイソンであった。フリーメイソンなくして彼の音楽は存在しないのである。図書館にはフリーメイソンについての文献がたくさんあるので是非借りていただきたい。

前置きが長くなってしまったが今回皆様にご紹介したいのはCDで、モーツァルトのピアノ協奏曲だ。20番以降からは作風が少し変わるが、これは彼がフリーメイソンに加入して間もなくの作品なのである。ピアノ科なら誰もが憧れるピアノ協奏曲、室内楽のように聴くことの出来るアンサンブルの上にピアノという楽器の王様が加わった響きの楽しさや音の深さをお楽しみ戴けると思う。

ピアノストは日本人である内田光子さんで、また彼女の粒だった美しい音色が作品の良さをぐっと引き立てる最高のCDボックスになっている。



請求記号 ● XD12280~12283  
後期ピアノ協奏曲集/モーツァルト  
Philips PHCP-1024~1027  
\*現在は廃盤

●さとう かおり 大学生活も残り半分、新校舎完成が待ちどおしくなってきました! 噂では学食がいらしいですが...笑